



宮原良治司教認可 発行所 福岡司教区本部 福岡市中央区浄水通6-28 発行人 下町豊重 編集人 下町豊重 TEL 092-522-4059 FAX 092-523-2152 振替口座 01760-6-20729 カトリック福岡司教区 定価 一部60円



主のご復活 おめでとうございませう 恵み深い主に感謝せよ。いつくしみはとこしえに。(詩編136・1)

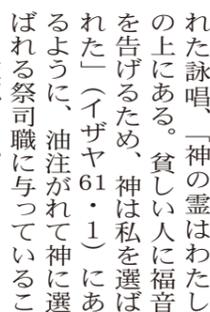
カテドラルで主の復活を祝う 新しい命に招かれる喜び



復活徹夜祭に灯された「キリストの光」

3月26日(土) 19時より、宮原良治司教主司式の復活徹夜祭のミサがカテドラル大名町教会で行われた。この日、大名町教会では6人の成人が洗礼式にのぞんだ。宮原司教は説教で洗礼のめぐみについて説いた。「洗礼のめぐみは(死の体験)と(新しい命の体験)の2つの体験から成っています。イエスは究極の苦

「主にささげる二十四時間」が実施された。カテドラル大名町教会では四旬節黙想会にて、S・フランコ神父(真命山院長)が「ゆるしの秘跡」についての講話を行った。フランコ神父は「ゆるしの秘跡の主導者は神。神が私たちを愛し、ゆるしてくださることに応え、私たちが悔い改め、回心に導かれる」と述べ、何よりも「いつくしみ深い御父をよく見ることが大切」と説いた。小郡教会ではのどかな小春日和の日、四旬節の黙想、ゆるしの秘跡、「いつくしみを讃えるミサ」が行われた。



聖香油に息を吹き込む宮原司教

3月23日(水)、カテドラル大名町教会において聖香油ミサが行われた。宮原良治司教主司式、教区内の司祭約60人が共同司式。平日にもかかわらず、約350人の修道者・信徒が集った。「祈り合い、支え合う私たちのすべての感謝を捧げましょう」との宮原良治司教の挨拶で始まったミサの中で、秘跡の執行に必要な三種の油(病者の塗油に用いられる紫の布に覆われた香油、洗礼志願者のための香油、洗心油)の記念でもある。司祭たちは叙階の約束を更新し、その恵みを新たにした。この日歌われた詠唱、「神の霊はわたしの心にある。貧しい人に福音を告げるため、神は私を選ばれた」(イザヤ61・1)にあるように、油注がれて神に選ばれた司祭職に与っていることを確認した。

祝司祭叙階 50周年・25周年 叙階50周年 Wマヘル神父 (オブレート会)

1966年4月26日、アメリカのシカゴ市に於いて、ジョン・コーデイ枢機卿の司式にて、シカゴ大神学校の聖堂で32人と一緒に叙階されました。叙階されて50年ですが、それは、78年前にスタートしたという気がします。小学校一年生の時、いつも、朗らかな助任司祭に憧れて、先に司祭になった兄に従って、オブレート会の小神学校に行くことになりました。私はオブレート会の司祭ですが、上智大学神学部で勉強した後、アメリカで叙階されました。今、振り返ってみると、私は神様から選ばれた協力者であると言っています。今、この年になって解ることとは全ては神様の恵み、私の力を誇るものではないということ。一言いえるものではない。それは誰にも誇ることのないためです。なぜなら私達は神に創られたものであり、しかも神が前もって準備してくださった良い業を行って歩むのです(エフェソ2:9-10)。日本で働くことが出来ることを、心から感謝する毎日です。

2013年4月に開校した長崎教会管区司祭志願院・福岡コレジオで奉仕させていた山村憲一神父 (長崎教区) 叙階25周年

振り返ってみると、私は神様から選ばれた協力者であると言っています。今、この年になって解ることとは全ては神様の恵み、私の力を誇るものではないということ。一言いえるものではない。それは誰にも誇ることのないためです。なぜなら私達は神に創られたものであり、しかも神が前もって準備してくださった良い業を行って歩むのです(エフェソ2:9-10)。日本で働くことが出来ることを、心から感謝する毎日です。

だいています。長崎教区司祭の私が、福岡の地で司祭叙階25周年を迎えるとは思っていませんでした。これまでの司祭職を振り返り思うことは、私とかかわってくださった方々を通して神様のお恵みをたくさんいただいたということ。きつとこれからの歩みもその繰り返しだと思います。「自分自身が一人でも多くの人にかかわることをすれば、それだけ多くのお恵みをいただくことができる。神様の働きを示すことができる。」この思いを忘れなようにします。司祭養成者としてふさわしくない私です。福岡コレジオでの奉仕を続けるためには、多くの方々の助けをいただきながらたくさんのお恵みをいただくことが必要です。先ずはお祈りをお願いいたします。神学生にしっかりと寄り添うことができますように。どうぞよろしくお祈いします。

「主にささげる二十四時間」が実施された。カテドラル大名町教会では四旬節黙想会にて、S・フランコ神父(真命山院長)が「ゆるしの秘跡」についての講話を行った。フランコ神父は「ゆるしの秘跡の主導者は神。神が私たちを愛し、ゆるしてくださることに応え、私たちが悔い改め、回心に導かれる」と述べ、何よりも「いつくしみ深い御父をよく見ることが大切」と説いた。小郡教会ではのどかな小春日和の日、四旬節の黙想、ゆるしの秘跡、「いつくしみを讃えるミサ」が行われた。

「祈り合い、支え合う私たちのすべての感謝を捧げましょう」との宮原良治司教の挨拶で始まったミサの中で、秘跡の執行に必要な三種の油(病者の塗油に用いられる紫の布に覆われた香油、洗礼志願者のための香油、洗心油)の記念でもある。司祭たちは叙階の約束を更新し、その恵みを新たにした。この日歌われた詠唱、「神の霊はわたしの心にある。貧しい人に福音を告げるため、神は私を選ばれた」(イザヤ61・1)にあるように、油注がれて神に選ばれた司祭職に与っていることを確認した。

祝司祭叙階 50周年・25周年 叙階50周年 Wマヘル神父 (オブレート会)

1966年4月26日、アメリカのシカゴ市に於いて、ジョン・コーデイ枢機卿の司式にて、シカゴ大神学校の聖堂で32人と一緒に叙階されました。叙階されて50年ですが、それは、78年前にスタートしたという気がします。小学校一年生の時、いつも、朗らかな助任司祭に憧れて、先に司祭になった兄に従って、オブレート会の小神学校に行くことになりました。私はオブレート会の司祭ですが、上智大学神学部で勉強した後、アメリカで叙階されました。今、振り返ってみると、私は神様から選ばれた協力者であると言っています。今、この年になって解ることとは全ては神様の恵み、私の力を誇るものではないということ。一言いえるものではない。それは誰にも誇ることのないためです。なぜなら私達は神に創られたものであり、しかも神が前もって準備してくださった良い業を行って歩むのです(エフェソ2:9-10)。日本で働くことが出来ることを、心から感謝する毎日です。

2013年4月に開校した長崎教会管区司祭志願院・福岡コレジオで奉仕させていた山村憲一神父 (長崎教区) 叙階25周年

振り返ってみると、私は神様から選ばれた協力者であると言っています。今、この年になって解ることとは全ては神様の恵み、私の力を誇るものではないということ。一言いえるものではない。それは誰にも誇ることのないためです。なぜなら私達は神に創られたものであり、しかも神が前もって準備してくださった良い業を行って歩むのです(エフェソ2:9-10)。日本で働くことが出来ることを、心から感謝する毎日です。

だいています。長崎教区司祭の私が、福岡の地で司祭叙階25周年を迎えるとは思っていませんでした。これまでの司祭職を振り返り思うことは、私とかかわってくださった方々を通して神様のお恵みをたくさんいただいたということ。きつとこれからの歩みもその繰り返しだと思います。「自分自身が一人でも多くの人にかかわることをすれば、それだけ多くのお恵みをいただくことができる。神様の働きを示すことができる。」この思いを忘れなようにします。司祭養成者としてふさわしくない私です。福岡コレジオでの奉仕を続けるためには、多くの方々の助けをいただきながらたくさんのお恵みをいただくことが必要です。先ずはお祈りをお願いいたします。神学生にしっかりと寄り添うことができますように。どうぞよろしくお祈いします。

平日のまだ暗くて寒い早朝、ドンドンと司祭館の戸口を叩く音がする。「誰だろう。聖堂にはさっき電灯を点け、エアコンも入れたし、ミサまで30分はあるのに」と思った。黙っていると、今度は強く叩く音と一緒に大きな声がする。「神父様、神父様」。聞き覚えのある声だ。「何でしょうか」とこちらも大声で返す。「神父様、ミサ前に告解(罪のゆるし)をさせてください」と言う。「告解?昨日の日曜日にすれば良かったのに」と思いながらも、「はい、分かりました。聖堂で待っていてください」と返事する。自分にとって平日のこの時間はすることがある大切な時。それが「壊される」という思いを、「その人の救いのために」という思いに変える。それは神が与えた克己の時、そして愛の実証の時。分かっている。それにしても、聖書はよく語ったものだ。「...あなた達に言うておく。友人だかたという事で、起きて、何も与えることはしなくても、そのしつこさのゆえに起きて、彼が求めるものをすべて貸すにちがいない」(ルカ11章) ◆ 教皇は「いつくしみの特別聖年」の大勅書で、「いつくしみ深い御父のようであれ」と諭し、教区長は「いつくしみ深く、御父のよう」に年間テーマで私たちを促している。分かっている。それらのことを私たちは身を持って行う務めがある。しかし、行うためにはまず、持っているなければならない。だから、行うために、持つために御父のみ心を知るようにしよう。私たちの救いのために独り子をおられる御父のみ心。(S)

「主にささげる二十四時間」が実施された。カテドラル大名町教会では四旬節黙想会にて、S・フランコ神父(真命山院長)が「ゆるしの秘跡」についての講話を行った。フランコ神父は「ゆるしの秘跡の主導者は神。神が私たちを愛し、ゆるしてくださることに応え、私たちが悔い改め、回心に導かれる」と述べ、何よりも「いつくしみ深い御父をよく見ることが大切」と説いた。小郡教会ではのどかな小春日和の日、四旬節の黙想、ゆるしの秘跡、「いつくしみを讃えるミサ」が行われた。

「祈り合い、支え合う私たちのすべての感謝を捧げましょう」との宮原良治司教の挨拶で始まったミサの中で、秘跡の執行に必要な三種の油(病者の塗油に用いられる紫の布に覆われた香油、洗礼志願者のための香油、洗心油)の記念でもある。司祭たちは叙階の約束を更新し、その恵みを新たにした。この日歌われた詠唱、「神の霊はわたしの心にある。貧しい人に福音を告げるため、神は私を選ばれた」(イザヤ61・1)にあるように、油注がれて神に選ばれた司祭職に与っていることを確認した。

祝司祭叙階 50周年・25周年 叙階50周年 Wマヘル神父 (オブレート会)

1966年4月26日、アメリカのシカゴ市に於いて、ジョン・コーデイ枢機卿の司式にて、シカゴ大神学校の聖堂で32人と一緒に叙階されました。叙階されて50年ですが、それは、78年前にスタートしたという気がします。小学校一年生の時、いつも、朗らかな助任司祭に憧れて、先に司祭になった兄に従って、オブレート会の小神学校に行くことになりました。私はオブレート会の司祭ですが、上智大学神学部で勉強した後、アメリカで叙階されました。今、振り返ってみると、私は神様から選ばれた協力者であると言っています。今、この年になって解ることとは全ては神様の恵み、私の力を誇るものではないということ。一言いえるものではない。それは誰にも誇ることのないためです。なぜなら私達は神に創られたものであり、しかも神が前もって準備してくださった良い業を行って歩むのです(エフェソ2:9-10)。日本で働くことが出来ることを、心から感謝する毎日です。

2013年4月に開校した長崎教会管区司祭志願院・福岡コレジオで奉仕させていた山村憲一神父 (長崎教区) 叙階25周年

振り返ってみると、私は神様から選ばれた協力者であると言っています。今、この年になって解ることとは全ては神様の恵み、私の力を誇るものではないということ。一言いえるものではない。それは誰にも誇ることのないためです。なぜなら私達は神に創られたものであり、しかも神が前もって準備してくださった良い業を行って歩むのです(エフェソ2:9-10)。日本で働くことが出来ることを、心から感謝する毎日です。

だいています。長崎教区司祭の私が、福岡の地で司祭叙階25周年を迎えるとは思っていませんでした。これまでの司祭職を振り返り思うことは、私とかかわってくださった方々を通して神様のお恵みをたくさんいただいたということ。きつとこれからの歩みもその繰り返しだと思います。「自分自身が一人でも多くの人にかかわることをすれば、それだけ多くのお恵みをいただくことができる。神様の働きを示すことができる。」この思いを忘れなようにします。司祭養成者としてふさわしくない私です。福岡コレジオでの奉仕を続けるためには、多くの方々の助けをいただきながらたくさんのお恵みをいただくことが必要です。先ずはお祈りをお願いいたします。神学生にしっかりと寄り添うことができますように。どうぞよろしくお祈いします。

平日のまだ暗くて寒い早朝、ドンドンと司祭館の戸口を叩く音がする。「誰だろう。聖堂にはさっき電灯を点け、エアコンも入れたし、ミサまで30分はあるのに」と思った。黙っていると、今度は強く叩く音と一緒に大きな声がする。「神父様、神父様」。聞き覚えのある声だ。「何でしょうか」とこちらも大声で返す。「神父様、ミサ前に告解(罪のゆるし)をさせてください」と言う。「告解?昨日の日曜日にすれば良かったのに」と思いながらも、「はい、分かりました。聖堂で待っていてください」と返事する。自分にとって平日のこの時間はすることがある大切な時。それが「壊される」という思いを、「その人の救いのために」という思いに変える。それは神が与えた克己の時、そして愛の実証の時。分かっている。それにしても、聖書はよく語ったものだ。「...あなた達に言うておく。友人だかたという事で、起きて、何も与えることはしなくても、そのしつこさのゆえに起きて、彼が求めるものをすべて貸すにちがいない」(ルカ11章) ◆ 教皇は「いつくしみの特別聖年」の大勅書で、「いつくしみ深い御父のようであれ」と諭し、教区長は「いつくしみ深く、御父のよう」に年間テーマで私たちを促している。分かっている。それらのことを私たちは身を持って行う務めがある。しかし、行うためにはまず、持っているなければならない。だから、行うために、持つために御父のみ心を知るようにしよう。私たちの救いのために独り子をおられる御父のみ心。(S)

「主にささげる二十四時間」が実施された。カテドラル大名町教会では四旬節黙想会にて、S・フランコ神父(真命山院長)が「ゆるしの秘跡」についての講話を行った。フランコ神父は「ゆるしの秘跡の主導者は神。神が私たちを愛し、ゆるしてくださることに応え、私たちが悔い改め、回心に導かれる」と述べ、何よりも「いつくしみ深い御父をよく見ることが大切」と説いた。小郡教会ではのどかな小春日和の日、四旬節の黙想、ゆるしの秘跡、「いつくしみを讃えるミサ」が行われた。

「祈り合い、支え合う私たちのすべての感謝を捧げましょう」との宮原良治司教の挨拶で始まったミサの中で、秘跡の執行に必要な三種の油(病者の塗油に用いられる紫の布に覆われた香油、洗礼志願者のための香油、洗心油)の記念でもある。司祭たちは叙階の約束を更新し、その恵みを新たにした。この日歌われた詠唱、「神の霊はわたしの心にある。貧しい人に福音を告げるため、神は私を選ばれた」(イザヤ61・1)にあるように、油注がれて神に選ばれた司祭職に与っていることを確認した。

祝司祭叙階 50周年・25周年 叙階50周年 Wマヘル神父 (オブレート会)

1966年4月26日、アメリカのシカゴ市に於いて、ジョン・コーデイ枢機卿の司式にて、シカゴ大神学校の聖堂で32人と一緒に叙階されました。叙階されて50年ですが、それは、78年前にスタートしたという気がします。小学校一年生の時、いつも、朗らかな助任司祭に憧れて、先に司祭になった兄に従って、オブレート会の小神学校に行くことになりました。私はオブレート会の司祭ですが、上智大学神学部で勉強した後、アメリカで叙階されました。今、振り返ってみると、私は神様から選ばれた協力者であると言っています。今、この年になって解ることとは全ては神様の恵み、私の力を誇るものではないということ。一言いえるものではない。それは誰にも誇ることのないためです。なぜなら私達は神に創られたものであり、しかも神が前もって準備してくださった良い業を行って歩むのです(エフェソ2:9-10)。日本で働くことが出来ることを、心から感謝する毎日です。

2013年4月に開校した長崎教会管区司祭志願院・福岡コレジオで奉仕させていた山村憲一神父 (長崎教区) 叙階25周年

振り返ってみると、私は神様から選ばれた協力者であると言っています。今、この年になって解ることとは全ては神様の恵み、私の力を誇るものではないということ。一言いえるものではない。それは誰にも誇ることのないためです。なぜなら私達は神に創られたものであり、しかも神が前もって準備してくださった良い業を行って歩むのです(エフェソ2:9-10)。日本で働くことが出来ることを、心から感謝する毎日です。

だいています。長崎教区司祭の私が、福岡の地で司祭叙階25周年を迎えるとは思っていませんでした。これまでの司祭職を振り返り思うことは、私とかかわってくださった方々を通して神様のお恵みをたくさんいただいたということ。きつとこれからの歩みもその繰り返しだと思います。「自分自身が一人でも多くの人にかかわることをすれば、それだけ多くのお恵みをいただくことができる。神様の働きを示すことができる。」この思いを忘れなようにします。司祭養成者としてふさわしくない私です。福岡コレジオでの奉仕を続けるためには、多くの方々の助けをいただきながらたくさんのお恵みをいただくことが必要です。先ずはお祈りをお願いいたします。神学生にしっかりと寄り添うことができますように。どうぞよろしくお祈いします。

平日のまだ暗くて寒い早朝、ドンドンと司祭館の戸口を叩く音がする。「誰だろう。聖堂にはさっき電灯を点け、エアコンも入れたし、ミサまで30分はあるのに」と思った。黙っていると、今度は強く叩く音と一緒に大きな声がする。「神父様、神父様」。聞き覚えのある声だ。「何でしょうか」とこちらも大声で返す。「神父様、ミサ前に告解(罪のゆるし)をさせてください」と言う。「告解?昨日の日曜日にすれば良かったのに」と思いながらも、「はい、分かりました。聖堂で待っていてください」と返事する。自分にとって平日のこの時間はすることがある大切な時。それが「壊される」という思いを、「その人の救いのために」という思いに変える。それは神が与えた克己の時、そして愛の実証の時。分かっている。それにしても、聖書はよく語ったものだ。「...あなた達に言うておく。友人だかたという事で、起きて、何も与えることはしなくても、そのしつこさのゆえに起きて、彼が求めるものをすべて貸すにちがいない」(ルカ11章) ◆ 教皇は「いつくしみの特別聖年」の大勅書で、「いつくしみ深い御父のようであれ」と諭し、教区長は「いつくしみ深く、御父のよう」に年間テーマで私たちを促している。分かっている。それらのことを私たちは身を持って行う務めがある。しかし、行うためにはまず、持っているなければならない。だから、行うために、持つために御父のみ心を知るようにしよう。私たちの救いのために独り子をおられる御父のみ心。(S)

久留米教会 聖遺物を迎えるめぐみ

3月8日(火)～17日(木)の10日間、ポーランドより運ばれた聖ヨハネ・パウロ二世と聖ファウスティナの聖遺物が久留米教会に安置され、午前9時から午後5時まで、延べ100人近くの人々が時間を割り当て、交代で祈りを捧げた。福岡教区では久留米教会が一番早く安置された。久留米教会は、フィリピン国籍の方も多く、ファウスティナに対して信心が強い方が多い。聖遺物を通して、多くの方々が、聖体を訪問し、祈りを捧げることが出来たのは、聖遺物をお迎えした実りだったといえる。



◆原稿は4000字以内
◆投稿先：福岡カトリック教区報 教区報係り宛
FAX 092・523・2152
メール cdf-kouhou@nifty.com
※「自由席」と明記し、住所、氏名、年齢、電話番号、所属教会も明記してください。
※用語その他で編集・添削することもあります。
※原稿はお返しいたしませんのでご了承ください。

溝部司教は1935年3月、現北朝鮮のシンウイジュ(新義州)生まれ。55年にサレジオ修道会に入会。64年、イタリア・トリノで司祭叙階された。享年80歳。



溝部司教 帰天

仙台教区と高松教区の司教を務めたフランシスコ・ザビエル溝部司教が2月29日、がんのため入院先の京都大学医学部附属病院で亡くなった。享年80歳。

3月6日、四旬節第四主日(喜びの主日)にカテドラル大名町教会にてイ・ハヌン神学生の祭壇奉仕者選任式が宮



宮原司教よりパテナとカリスを授かるイ神学生(右)

イ・ハヌン神学生 祭壇奉仕者選任式 本物の美しさに出会う召命

心から解放されていく歩み。イ神学生も故郷を離れ、キリストに依り新たな地にいます。放蕩息子が御父の永遠の愛を再発見し、そこに戻っていったように、若者が本物の美しさに出会うことができるように共に祈りましょう」と述べた。

原良治司教主司式で行われた。宮原司教は説教で、「召命はもつと良いものに出会い、今までの持っていたものを喜びのうちに手放す、執着

自由席



大人の信仰への第一歩

1月31日、戸畑若松小倉の3教会合同の堅信式が戸畑教会で行われた。堅信式までの間、聖書を読み、神様について考える、そして皆で分かち合う中で、より神様と近くなる気がした。また、自分の信仰について、振り返るきっかけにもなった。カトリックの信者と

イ神学生は、「いづくしみ深い神がいなければ、ここに立つことができなかった。この歩みを支えてくれた皆さんに感謝するとともに、皆さんのそれぞれの召命の道を応援していきたい。祈りのうちに共に歩み続けましょう」と語った。

「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。」 (ルカ4章43節)

フィリピンカトリック信徒宣教会 エデン ビン アルバ氏 Ms. Eden "Bing" Alba, Philippine Catholic Lay Mission

移民のための社会司牧ケア：日本に雇用を求める外国人の流入に対する日本の教会の応え②

カトリックの信仰における養成と知識の不足から、フィリピン人はほとんど教会に来ませんが、それでも彼らの心の中には信仰があります。フィリピンの教会はこの弱点を認め、この欠如している部分を満たすために、全力で信徒に働きかけようとしています。また、日本のような移住先の教会が、日本カトリック難民移住移動者委員会を設けて、キリスト教徒だけではなく信仰・宗教の背景を問わず、移民の社会司牧的な求めに応じていることに大変感謝しています。

ここに記したことを通して、皆さんが少しでもフィリピンのカトリックについて知っていただけたらと思います。私の希望は、いつか私たちが信仰と行動において「ひとつの教会」となることです。長い道のりかもしれませんが、私たちの心のうちにいる神と聖母マリアと共に歩むとき、私たちは到達するでしょう。ひとつの教会になるという希望を胸に、私たちは聖母像を伴った家庭集会(訪問)を始めました。集会ではロザリオの祈りの信心を奨励し、信仰と生活の分かち合いを行い、少しの聖書の勉強をしています。そして、そこに参加する人々が日曜日のミサに来るようになることを期待しています。

「教区の日」(11月23日)に私は初めて参加し、大変貴重な体験となりました。熊本に9年間いたときには、11月3日に福岡の神学院で開かれる「召命の日」に、ほぼ毎年参加していました。千葉(東京教区)にいた時には毎年、千葉地区大会があり、私たち外国人もその集いに参加していました。来年からは福岡でも同じように外国人が参加できるようになれば良いと思います。



※アルバ氏はフィリピンカトリック信徒宣教会所属で、福岡教区に招かれ教区内で主に外国人のための宣教司牧に奉仕している。

Socio-Pastoral Care for Migrants Is the Church response to the influx of foreigners coming to Japan to find work <Part II>

You may seldom see Filipinos coming to Church due to lack of formation and knowledge on our Catholic Faith and doctrines but surely they have faith in their hearts.

The Philippine Church has seen this weaknesses and is trying its best to reach out to the faithful to fill in the vacuum and is very grateful to the country of destinations like Japan through Japan Catholic Action for Refugees and People on the Move (CBCJ-J-Carm) for its effort to respond to the socio-pastoral needs of migrants not only to Christians but to all regardless of faith and religious backgrounds.

With this information, I hope you now have a glimpse of who a Filipino Catholic is. My hope is that one day we will become a ONE CHURCH in Faith and in Action. This may still be a long way but with God and Mama Mary in our hearts we will succeed. To attain this hope of becoming one Church, we started the House to House Visit of the Statue of Our Lady to promote the devotion on praying the Rosary and sharing faith-life experience, do some Bible Studies and eventually hope to see them come to Mass on Sundays.

The Diocese' Day on Nov 23 which I attended for the very first time was an overwhelming experience. When I was in Kumamoto for more than 9 years, I only attended the Nov 3 Vocation Day in Fukuoka Seminary almost every year. I remember my time in Chiba (Archdiocese of Tokyo), on their annual Chiba Block Taikai, we foreigners participated the event. Hope in the coming years we can do the same in Fukuoka.

My presence in Saga is the Diocese of Fukuoka's response to the Socio-Pastoral needs of the foreigners particularly the Filipinos living in Saga Prefecture, and I am very grateful to Bishop Dominico Miyahara for inviting me and to the Saga District parishioners and parish priests for opening your hearts on the presence of the foreigners. May we continue to work hand in hand to serve God's people.

【月例黙想会】

期日：4月16日(土)17時～17日(日)15時
指導者：染野 治雄 神父(福岡黙想の家主任)
費用：8,700円(税込・指導料含む)
◆黙想会の申込締切は開催の一週間前まで
◆詳細はお問合せください

【黙想の家後援会会員の黙想会】

期日：4月23日(土)10時～24日(日)13時
指導者：来住 英俊 神父(御受難修道会)
テーマ：いつくしみの特別聖年
費用：会員特別価格5,000円(当日入会可・入会金1000円以上)

カトリック御受難修道会・福岡黙想の家
811-4155 宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222(9:30～16:30)
Fax 0940-32-3385 E-メール f-mokuso@fmokusou.com
インターネットで検索

福岡黙想の家 検索



ミサ用ワイン



ヴァノ デ ミサ VINO DE MISA
スイートタイプ(赤)(白)
ご用命 お問い合わせは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち

草苑

カトリックのご葬儀

互助会制度もご利用できます。

木下株式会社

TEL 092-526-5656

〒810-0016

福岡市中央区平和3丁目1-5

日韓青年交流会 一人の勇気から、多くの人の一致へ



繋がりを深めた日韓の青年と司祭たち

分のこととして考えるよい機会となった。交流会の最終日、岡田武夫大司教（東京大司教区）によるミサが執り行われ、その説教で「日本にキリスト教が入って来た時には『愛する』という言葉が浸透しておらず、『大切』という言葉で代用されていた。愛すること大切にする、愛すること大切にするべき」として捉えるべき」と語った。担当司祭の福島一基神父は、「この交流会が無くなるのは、働くことのできる聖職者がなくなることと原因がある。続けてほしい人はぜひ司祭、修道者となつてほしい」と青年たちと呼びかけていた。

2月18日から22日にかけて、東京で最後の日韓青年交流会が開かれた。日本側35人、韓国側24人の参加者で、東京大司教の地の巡礼、浅草探索、ポートボールなどのレクリエーションを通して繋がりを深めることが出来た。

数年前の韓国での交流会で日本の青年が過去の戦争について学んだ際、とても心を痛め涙を流した。そしてこの青年が自らの先祖たちの過ちを認め謝罪したことにより、韓国の青年たちもまた自分たちの先祖が戦争の時に傷つけたベトナムやアジアの国々へ赴き、謝罪して回る活動



「あなたと僕の心は同じなんだ！...あなたの心を感じてほしい。...ただ近づいてよく見てもらえん。」

信徒（信徒）が立ち上がる。

「あなたと僕の心は同じなんだ！...あなたの心を感じてほしい。...ただ近づいてよく見てもらえん。」ポリビアの障がい者施設「聖マルティンの家」の大学生ローナルが作詞・作曲した。

ポリビア・障がい者施設「聖マルティンの家」

1999年、福岡出身の野原昭子氏がポリビアで障がい者施設を始め、同時期に日本での支援団体として「エルピス会」（代表 依靖子（水）



野原氏（右）とマリア・ルイス（左）

「来てみなさい、手が動きます」
by 福者マザー・テレサ
支援団体「エルピス会」のホームページ <http://erupisukai.jimdo.com/>にて活動の様子などがご覧になれます。「エルピス (Elpis)」はギリシャ語で「希望」の意味。

現在、障がい者施設の他に農園と売店を運営。ポリビアでは国や地方自治体からの障がいをもつ人々への援助はほとんどない。野原氏は障がい者が人間らしく生きていくための活動を行っている。施設にやってくる人々は、徐々に人間性を回復し、それぞれのタレントを活かし、自立する道を模索する。

野原氏は、「16年前、何も準備のないままに無謀にも障がい者を受け入れて始まりました。」とほかにんだ笑顔で感謝を表した。

「FIAT」が始まった。またこの交流会に参加していた青年は、なんとか一致を作り上げた。今後は何かしらの形で継続され、繋がりを持てればと願う。

ある行動が、多くの人の一致のために役立ったことを知らされた。今後は何かしらの形で継続され、繋がりを持てればと願う。

司教館で定期的に行われている教区幼児教育連盟の園長会。2月24日は25園の園長が集まった。半分は園は何らかの事情で欠席だったが、委任状が出されていた。青木悟神父（連盟副会長）による初めの祈りの後、宮原良治司教が、「卒園式を控えて忙しい頃、大勢集まっていたら、感謝したい。日頃の子どもの成長への寄与にも感謝したい。これからは神の福音を心と身体を使って伝えてほしい」と労いと励まし言葉をもって挨拶した。

と新年度の予算案を会計係の深堀勝人神父（北九州・聖母園園長）が述べた。この後、役員交代が行われ、佐賀地区の代表下町豊重神父（佐賀・佐賀カトリック幼稚園園長）が熊本地区の責務遂行に感謝し、「佐賀地区も心と力を一つにして頑張ります」と力強く語った。その後情報交換があり、最後に司教より「中堅教職員養成プログラムに参加し、精神的な磨きをしてほしい。また、3月31日の新入教職員研修会（学法・宗法問わす）にも出席してほしい」との誘いがあった。終わりの祈りの後、宮原司教から祝福をいただいた散会した。

教区幼児教育連盟 園長会はいつとも和やか

（報告）竹内英次神父

福岡レジオ・マリエ「アチエス」にて交流を深める

3月13日、カトリック高宮教会において、レジオ・マリエ福岡クリアの「アチエス（聖母への奉献式）」が行われました。福岡教区内の、小郡・鳥栖・佐賀・高宮・光丘・笹丘・北九州の、七つのプレジディウムの会員が年に一度一堂に会し、ロザリオ五連を含むレジオ・マリエの祈りを唱え、指導司祭で高宮教会主任のジョンソン神父様司式によるミサ聖祭に与りました。その後は、お待ちかねの懇親会です。新しい会員の方を始めとした自己紹介の後、他のプレジディウムの方たちと歓談して、交流を深めました。



昨年10月の、これも年に一度の戸外行事で、一泊二日の天草巡礼が企画され、大江・崎津両教会へ巡礼いたしました。美しい二つの教会でミサやお祈りを捧げ、天草コレジオ館では、天正少年使節時代の衣装で古楽器を演奏するコンサートを楽しみました。どうぞ、皆様も、お近くの教会のレジオ・マリエに顔を出してみてください。（笹丘教会 松尾 充子）

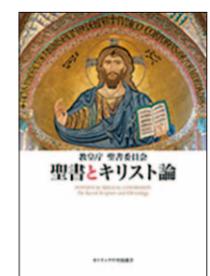
福岡ホスピスの会講演会 豊かな心で死を迎える



講師の樋野興夫氏

一年前、日本キリスト教出版局の月刊誌「信徒の友」に「がん哲学外来・がんカフェ」という斬新な記事に巡り合えた。早速、著者の順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授・樋野興夫氏と連絡を取り、2月13日、福岡ホスピスの会主催の講演が実現した。

「真のQOL (Quality of Life) 幸せは、どこで最期を過ごすかではなく、いかに豊かな心で死を迎えるかが大切であること」を痛感した。福岡ホスピスの会の「がんカフェ」も5月から開催予定であるが、「ことばの処方箋」で語り合える日も近い。（4面お知らせ参照）



☆聖書とキリスト論
教皇庁 聖書委員会



宣教師パウロは命をかけてキリストを証した。本書はパウロのようにキリストに捕らえられ、生かされ、身に帯びている「キリスト者の生き方」とは何かとの問いにヒントを与えてくれる。



☆パウロの手紙を読む
京都教区聖書委員会
聖書講座シリーズ13
価格1200円（税別）

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
株) ジャパン・スマイルか
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
<http://www.iruka-japan.com/>

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市天神山 7-91 TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社 代表: エリザベト熊谷

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事
・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 **森山工務店**
ヨゼフ 森山 新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎ (092) 811-7265

本との出会い 人との出会い 神との出会い
セント・ポール FUKUOKA
キリスト教書籍・信心用具・ビデオ・DVD・CD
福岡市中央区大名 2-7-7 大名町カトリック教会 1F
平日/AM 10時~PM 5時40分
日・祝日/AM 11時~PM 4時 (水曜日定休日)
TEL 092(741)4588 FAX 092(741)4601
URL: <http://www.pauline.or.jp>

年間目標

いつくしみ深く 御父のように

4月13日

司教座聖堂(カテドラル大名町教会) 献堂記念

教区司教が典礼を司式するときに座る椅子を司教座(カテドラル)と言い、その司教座がおかれた教会堂を司教座聖堂と言います。司教座聖堂は教区の母聖堂と呼ばれ、一小教区の聖堂であることを越えて、司教と共に全教区民が集うところ、その献堂記念日は教区の祝日です。福岡教区では、1927年福岡教区設立以来、司教座は大名町教会におかれ、現在の宮原良治司教まで6代の司教の司教座聖堂となっています。現聖堂は1986年4月13日に献堂されました。今年も当日10時より宮原司教司式でミサが行われます。福岡教区の神の民の発展のため心を合わせてお祈りください。また、4月10日(日)は「カテドラル特別献金日」となっています。福岡教区の宣教司牧活動のための援助をお願いいたします。



福岡召命を共に祈る会

教区召命部会主催の一泊黙想会

日時: 4月11日(月) 13時~12日(火) 昼食後解散
場所: 御受難会修道会 福岡黙想の家
指導司祭: 中村 克徳神父(御受難修道会)
参加費: 1泊2日 7,650円
問合せ: 山口 ☎092・921・4532

福岡地区カトリック女性の会 第33回総会

日時: 4月23日(土) 10:00~15:40 (9時受付)
場所: カトリック大名町教会1階講堂
講演: 12:50~「愛のうちに共に育つ」 西 経一神父(神言修道会、長崎南山中学・高等学校校長)
ミサ: 14:40~ 宮原良治司教司式
参加費: 500円(弁当希望者別途500円)
申し込み締切: 4月17日(日) 各小教区委員まで(託児サービスあり・要予約)
問合せ: 角田 ☎090・5940・1344 FAX 092・933・6741

結婚講座(福岡・熊本地区)

※参加費: カップルで10,000円(カップルでの参加が原則)
<福岡地区>
日時: 5月14日~6月11日 毎土曜日 18時半~20時半
場所: カトリック大名町教会
問合せ: ☎092・741・3687
<熊本地区>
日時: 5月7日~6月4日 毎土曜日 19時~21時
場所: カトリック手取教会
問合せ: ☎096・352・3030

福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com

11時10分(場所) 西新教会聖堂(問合せ先) ☎090・4474・6719 安藤
■在福岡シスコ会集会
(日時) 4月17日(日) 14時から(場所) 高宮教会(指導) ジョーン神父(カプチン修道会)
(問合せ先) ☎092・8443・5831 岩崎
■カルメル在世会集会
(日時) 4月18日(月) 10時半から(場所) 福岡女子カメル会修道院・テレサの家(内容) ミサ・講話(指導) 中川博道神父(カルメル会) (問合せ先) ☎095・828・2350 鶴池
■レジオナリエ福岡クリア
(日時) 4月10日(日) 14時から(場所) 高宮教会(問合せ先) ☎090・5936・3831 今野
■震災のための祈りのリレー
(日時) 4月11日(月) ミサ6時10分から・夕の祈り19時から(場所) 大楠教会(問合せ先) ☎090・2305・5191 Br.阿部(パウロ会)
■神のうちの真のいのちの祈りの会(日時) 4月12日(火) 11時から(場所) 聖クララ寮(指導) ジョーン神父(カプチン修道会) (内容) ミサ・ロザリオ他(問合せ先) ☎090・9568・0076 野川
■山頭原太郎神父の戦争体験を聴く会(日時) 4月17日(日) 10時30分(場所) ホームレス支援夜回り4月8日金曜日20時(路上からアパートに入居した方を訪問) 第3土曜日13時(問合せ先) ☎092・431・1419 M.コース神父
■笹丘教会バザー
(日時) 5月8日(日) 11時~14時(場所) 笹丘教会(内容) 手芸品・遊休品の販売、喫茶・食堂、抽選会他
■典礼聖歌研修会
(日時) 5月8日(日) 13時~15時(場所) 福岡黙想の家・ザビエル聖堂(指導) 深堀純氏(問合せ先) ☎0940・32・3222 ※典礼聖歌集をお持ちください。自由献金
■福岡ホスピスの会 第1回がん哲学外来「ぬくみカフェ」(日時) 5月8日(日) 14時~

編集後記

春の花一杯で、心がうきうきする。希望に満ちた日々。神さま、真つ直ぐに歩けるよう豊かな導きを。(S)

案内板

会合と催し

4月のこよみ

福岡黙想の家ご案内 4月

11日(月)~12日(火) 召命を共に祈る会(空室10)
16日(土)~17日(日) 月例黙想会(参加者募集中)
19日(火)~20日(水) やすらぎ会・華のグループ(空室5)
23日(土)~24日(日) 黙想の家後援会会員の黙想会(募集中)
29日(金)~5月5日(木) 日本心身医学協会(空室10)

*宗像市名残1056 ☎0940・32・3222 FAX 0940・32・3385
Email: f-mokuso@fokokus.com
インターネットで検索 福岡黙想の家 検索

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

※祈りの集い

年間テーマ: イエスとの出会い その喜びを味わう
・日時: 4月14日(木) 10時~15時
・内容: トマス (ヨハネ20:19~28)
指導者: フランコ・ソットコロノラ神父(真命山院長)
問合わせ先: 真命山諸宗教対話・靈性交流センター
・次回: 5月12日(木) イエスの愛する弟子(ヨハネ21:1~7)
☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186
玉名郡和水町蜻蛉1391-7・E-mail shinmeizan@gmail.com

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時: 4月9日、23日、5月7日、21日
10時~11時45分
場所: カトリック大名町教会小聖堂

- 【福岡コレジオ】
イグナチオ吉浦 塾(伊万里) 大学2年
【長崎カトリック神学院】
ベトロ岩橋昂広(今村) 高校3年
アマシシのフランシスコ 萩原篤志(今村) 高校2年
ベトロ岩橋樹広(今村) 高校1年
パウロ横山 智(久留米) 高校1年
ヨハネ鈴木涼太郎(今村) 中学1年

- 【4月】
1日(金) 初金ミサ・サーリスの集い
†J.ケレハン(2008年 荒尾教会)
3日(日) 復活節第2主日(神のいつくしみの主日)
福岡山「小笠原玄也一家」殉教記念祭
†A.アレグリーニ(2006年 ロザリオの園)
神のおおげけ †ベトロ黒川博(2002年 大牟田教会)
4日(月) 「花まつり」表敬訪問 責任役員会
5日(火) 教会行政法制委員会
6日(水) 聖ヨハネ・パプティスタ司祭 常任司教委員会
7日(木) 復活節第3主日 カテドラル特別献金日
10日(日) 南粕屋教会信徒会館落成祝式
11日(月) 聖スタニスラオ司教殉教者
†ヨシ床島藤吾修道士(2014年 司教館)
13日(水) 司教座教会献堂記念ミサ
14日(木) 北九州召命を祈るミサ(小倉教会)
16日(土) サレジオ会助祭叙階式(新田原教会)
17日(日) 復活節第4主日 世界召命祈願の日
人吉教会聖信式
幼稚園学法化園長会議
(社福)「聖母の丘」落成祝式
福岡教区カトリック幼児教育教職員養成研修
福岡地区女性の会総会・ミサ
24日(日) 復活節第5主日 菊池教会聖信式
25日(月) 聖マルコ福音記者 教区司祭集会
†J.L.カズレ(2008年 杉山カトリック神学院)
29日(金) 聖カタリナ(シエナ)おとめ教会博士 昭和の日
福岡修道女連盟総会
九州青年キャンプ(~5月1日)
【5月】
1日(日) 復活節第6主日 世界広報の日(献金)
2日(月) 聖アタナシオ司教教会博士
3日(火) 聖フィリポ 聖ヤコブ使徒
6日(金) 初金ミサ・サーリスの集い

■ゴチックは司教日程

神学生紹介

4月にそれぞれ入学、進級する福岡教区の神学生をご紹介します。一人ひとりの歩みのために祈りください。

福岡

- 聖霊による刷新福岡祈りの集い(日時) 毎週月曜11時~12時半(場所) 大名町教会1階(内容) 賛美と感謝の祈り・聖書の分かち合い(問合せ先) ☎092・521・2403 蓮尾
■祈りの集い・勉強会
(日時) 4月9日(土) 14時から(場所) 聖パウロ修道会福岡修道院(指導) 永富久雄神父(聖パウロ修道会) (問合せ先) ☎092・541・3730 松山
■レジオナリエ福岡クリア
(日時) 4月10日(日) 14時から(場所) 高宮教会(問合せ先) ☎090・5936・3831 今野
■震災のための祈りのリレー
(日時) 4月11日(月) ミサ6時10分から・夕の祈り19時から(場所) 大楠教会(問合せ先) ☎090・2305・5191 Br.阿部(パウロ会)
■神のうちの真のいのちの祈りの会(日時) 4月12日(火) 11時から(場所) 聖クララ寮(指導) ジョーン神父(カプチン修道会) (内容) ミサ・ロザリオ他(問合せ先) ☎090・9568・0076 野川
■山頭原太郎神父の戦争体験を聴く会(日時) 4月17日(日) 10時30分(場所) ホームレス支援夜回り4月8日金曜日20時(路上からアパートに入居した方を訪問) 第3土曜日13時(問合せ先) ☎092・431・1419 M.コース神父
■笹丘教会バザー
(日時) 5月8日(日) 11時~14時(場所) 笹丘教会(内容) 手芸品・遊休品の販売、喫茶・食堂、抽選会他
■典礼聖歌研修会
(日時) 5月8日(日) 13時~15時(場所) 福岡黙想の家・ザビエル聖堂(指導) 深堀純氏(問合せ先) ☎0940・32・3222 ※典礼聖歌集をお持ちください。自由献金
■福岡ホスピスの会 第1回がん哲学外来「ぬくみカフェ」(日時) 5月8日(日) 14時~

北九州

- 16時(場所) 大名町教会4階会議室(内容) ことばの処方箋、がんを語り合う集い。当事者・ご家族・友人どなたでも参加可(参加費) 500円(問合せ先) ☎090・1162・6395 柴田
■北九州召命を共に祈る会
(日時) 4月14日(木) 14時から(場所) 小倉教会(内容) ミサ(宮原良治司教司式)と茶話会(問合せ先) ☎0949・24・9905 藤井
■小倉祈りの集い
(日時) 4月22日(金) 13時半~15時(場所) 小倉教会信徒会館2階(指導) ガブリエル神父(御受難会) (内容) みことばを味わう・賛美と感謝の祈り(問合せ先) ☎090・3998・55209 松田

佐賀

- 佐賀祈りの集い
(日時) 4月13日(水) 10時~12時(場所) 佐賀カトリック会館(内容) ミサと祈り(問合せ先) ☎0952・30・8347 吉武
■佐賀地区宣教司教評議会
(日時) 4月24日(日) 14時から(場所) 多久教会

熊本

- 聖霊による刷新熊本祈りの集い(日時) 毎週金曜日10時半~12時(場所) 手取教会信徒会館(内容) 賛美と感謝の祈り・聖書と典礼の分かち合い(問合せ先) ☎096・384・1693 中川
■熊本地区召命を共に祈る会
(日時) 4月休会/5月19日(木) (問合せ先) 健軍教会 ☎096・368・2825 浦川 務神父

人と人の絆を大切に、ご葬儀のご相談は
メモリーホール
業院・油山・野芥・小田部・今宿
馬出・南福岡・大野城・飯塚
市民葬儀・法事相談センター
六本松店・赤坂店
0120-45-1616

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院
医科・歯科臨床研修指定病院
地域医療支援病院
救命救急センター
総合周産期医療センター
がん診療連携拠点病院
地域災害拠点病院
*入院基本料(一般病棟7:1)
〒830-8543
福岡県久留米市津福本町422
TEL0942-35-3322(代表)
FAX0942-34-3115
http://www.st-mary-med.or.jp

痛みの相談室
いくま整骨院
受付時間
平日: 9:30~12:00
14:30~20:00
土曜: 9:30~15:00
休診: 日曜・祝祭日
福岡市西区姪浜駅南1-7-12-2F
TEL 092-884-0134
ペトロ 生熊吉吉

キリスト教書籍・用品
お買い物は365日、24時間 いつでもどうぞ!
http://www.paulus.jp
パウルスショップ
メディアによる福音宣教のために...
サンパウロ福岡宣教センター
10:00~18:00(月~土)/日・祝日休業/地下鉄赤坂駅より徒歩3分*駐車場完備
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26 ☎092-721-2032 fax.739-3930